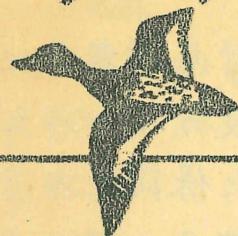


すずがも通信 No. 0



1979. 12. 26 (農月)

行徳野鳥観察会友の会会報

巻頭言

「行徳野鳥観察会友の会」設立にあたって

本年2月から休館していた行徳野鳥観察舎が、鉄筋コンクリート造り三階建てになって、12月26日オープンしました。

昭和51年1月の開設以来、保護区をめぐる自然環境は急速に悪化しています。観察舎裏手にあった草地は52年8月から宅地化され、丸浜養漁場跡は市川市の汚水終末処理場として現在工事が進められています。また、観察舎前の水路も家庭排水によって水質が悪化しています。カルガモ、バン、カイツブリ、ヨシゴイなど、新浜でもおなじみの鳥たちの繁殖にも悪影響が出ています。

保護区をめぐる自然環境は保全しなくてはならないものです。私たち、観察舎によく集まる者は、これまでに、①千葉県に対して「観察舎隣接地の購入及び観察施設の拡大について」、②市川市に対して「行徳観察舎そい水路の環境保全について」という陳情をしてきました。

今回、観察舎の増改築をきっかけに、「行徳野鳥観察会友の会」をつくりました。自然観察会、講演会、映写会等の行事も数々予定しています。広く利用者のみなさま方と手を結び、親睦を深めながら、野鳥たちにとって住みよい自然を守りでゆきたいと思います。

みなさまのご協力をお願ひいたします。

行徳野鳥観察会友の会設立準備会



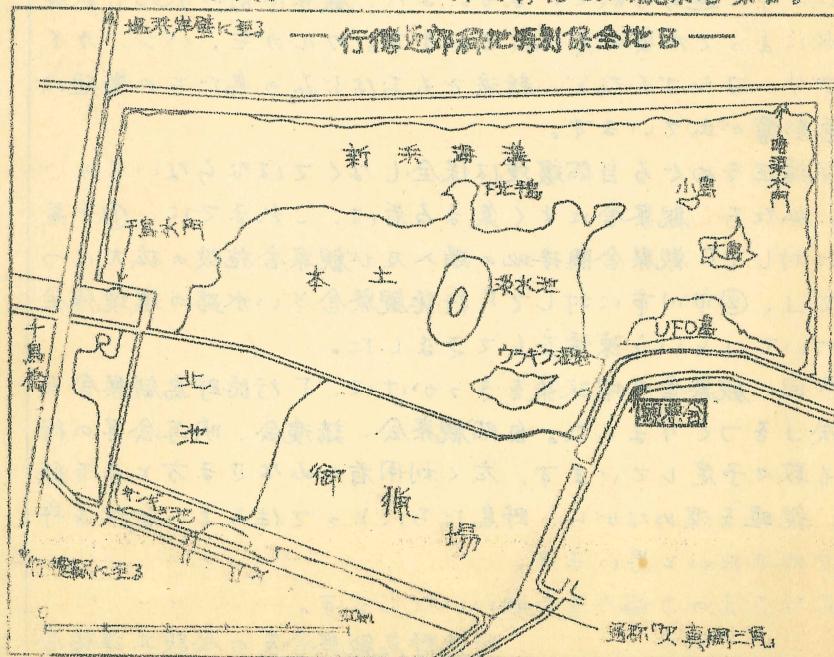
行事案内



●初日の出とスズガモの帰還を見る会 大きな初日と、頭上をすりぬけて帰つてくる数万羽のスズガモの群は圧巻です。観察会恒例の元旦の行事です。集合は、例年と違つて壇浜岸壁に5:30、各自ここに集合してください。行徳駅前の広い道をどんどん歩いて2.3キロ位のところ。自動車、自転車でも行けます。解散は観察舎、8:00の予定。

●定例観察会 野鳥観察会の
定例行事です。友の会が今年
から共催します。保護区内を
見て回ります。カモ、ワシ・タ
カ類、サギなど、35種ぐらい
の鳥が見られるでしょう。但
し、全行程3キロの寒い道の
りです。途中からはもどれま
せん。保護区の中では、大声
を出さないようにします。
1月6日、20日、2月3日、
17日の13:30に観察会集合

行健新嘉坡總經理室



内案行事



●スズガモの飛立ちを見る会
スズガモの群は、夕方東京湾
に飛び立て行きます。金属
的な羽音と、夕焼けにシルエ
ットとなって織りなす大群の
マスゲームは忘れ得ぬ思い出
となるでしょう。帰り道、コ
ミミズクが芦の上を飛ぶかも
しれない。1月6日、多摩

3日の16:30に観察会集合。解散は18:00頃の予定です。1月6日夜は還暦会議があります

●コミミズクヒゴイサギを見る会 夕方になると御獵場の林から、コミミズクヒゴイサギなどが飛び立ちます。遷がよいとトラフスクも見られます。場所は、觀察舎前の道です。

1月20日、2月17日の2回行
います。集合は観葉会に16:
30、解散は18:00。

- ・各行事とも防寒具は充分に!
- ・鳥に迷惑をかけないようだ!
- ・問い合わせ事務局 0473-57-9046
<総合方>

臺灣局 0473-57-9046
<農務方>

行徳野鳥観察倶友の会のあゆみ



51年1月 觀察舍開設

52年秋 観察舎裏手の草地で
草地造成が始まる。

52年末 観察舎常連有志が、
「市川野鳥の楽園友の会」を
作り、「観察舎隣接地の購入
及び観察舎施設の拡大について」
千葉県議会に要望書提出

53年2月 定例県議会で地元
選出の岡島伍郎議員が、川上
杞一知事に質問。知事は「隣
接地の買収は財政上困難だが
施設は拡充する」と明言され

大。
54年11月21日 新観察舎の完成
式を前に、再び有志が集まり、「行徳野鳥観察舎反の会」を組織し、龜谷栄氏を代表に選出。「行徳野鳥観察舎・その水路の環境保全について」陳情する旨決定。

54年12月10日 鶴谷代表が、
市川市議会議員、奥野万皇夫
氏を通じ市川市議会に陳情。

54年12月15日 市議会の採択
をうけ、署に送付された。



ジュニアのコーナー

観察舎が開設されてもう九年、ここで育ったジェニアたちも、再開を待っていた。

高1の原島政巳、中3の毫谷辰朗、鈴木晃夫、平山直樹、中2の佐藤尊弘らの各君を中心に、観察舎の活動を抜げてゆこうとはりき、ている。

考えていることは、①月2回の定例カウントを実行し、結果をまとめよ。②後輩たちの指導をする。特に鳥に対するマナーを教えた。③来館者に対する説明を手伝う。④新しくできる図書室に子供向けの本をふやしてもらいたい。⑤映画・スライドなどの上映会も手伝いたい。等々…抱負の大きいところを開かせてくれば。

・観察舎で見られる鳥――

スズガモ 6万羽

コオリガモ♀1羽

コミミズク(タガ)

カワウ 100羽

チエウヒ

ショウゲンボウ 日本



すずぎも通信No.0

-1979.12.26-

発行人 岩谷栄

編集人 志村英雄・黒澤

●《友の会》にご入会下さい!

①すでに入会された方は、お友達をご紹介ください。親睦と自然保護の輪を広げましょう。

②年会費 普通会員 1,000円

ジュニア会員 500円

(小・中・高校生)

贊助会員 2,000円

以上

③別紙「入会のお手続き」の申込み書にご記入のうえ、事務局までお送り下さい。本誌とともに、後日、本領収書をお送りします。

●運営会議について――

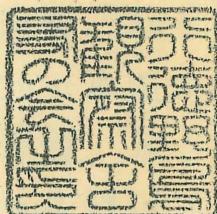
議題／今後の活動について

日時／1月6日 18:30～21:00

場所／観察舎前に集合

●会の印ができました――

会の印ができました。野鳥の会の蔵巻銀三さん経営の東洋堂



印房のお世話をになりました。

●締集後記――

せっかく行總から脱出したのに、締集の役がまわってきました。とりあえずこの号のみ引き受けました。(ドブハシ)